

子どもの生活習慣病予防健診では、以下の検査項目を実施します。

検査項目		何が分かる検査か？		
血管への影響 (動脈硬化の危険因子)	内臓脂肪の蓄積	肥満度 (%)	大人の BMI と同じで、身長と体重から分かる 身体の体格の指数のことです。	たいしぼう (体脂肪)
		腹囲	子どものメタボリックシンドローム (内臓脂肪) の診断基準になります。	
		中性脂肪	人にとってのエネルギー源。食品中の脂質や、 体脂肪の大部分を占めています。	血液中のあぶら (脂質)
		HDL コレステロール (善玉コレステロール)	余分なコレステロールを回収して、 動脈硬化を抑えます。	
		GOT (AST)	全ての食べ物を肝臓が処理してくれます。 肝細胞が破壊されると血液に出てくるので、 その量で肝臓の機能を調べています。	かんぞう (肝臓)
		GPD (ALT)		
		γ-GTP		
		収縮期 (最高) 血圧	血液が流れる際に血管の壁にかかる圧力です。 心臓から拍出される血液量と 末梢血管の抵抗 (血管が締まったり硬くなったり) で決まります。	けつあつ (血圧)
		拡張期 (最低) 血圧		
易血栓化	ヘマトクリット	血液を流れる血球の容積を見ています。	ひんけつ (貧血)	
	ヘモグロビン	赤血球の割合をみています。 少なすぎると貧血になります。		
インスリン抵抗性	血糖 (空腹時)	生きるために必要なエネルギー源です。 血液の中の糖を調べ、 糖が身体でうまく使っているか調べます。	血液中の糖 (糖代謝)	
	HbA1C (NGSP 値) ヘモグロビンエーワンシー	赤血球のたんぱく質成分にくっついた糖の割合を 調べる検査です。 大体3か月の血糖値の平均が分かると 言われています。		
	LDL コレステロール	肝臓で作られたコレステロール (細胞壁やホルモ ンの原料) を全身に運ぶ役割を担っているが、 増えすぎると動脈硬化をおこします。		血液中のあぶら (脂質)



これを機会に日頃の生活習慣を見直し、  
将来の生活習慣病を予防しましょう！